

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年七月度 入選句（投稿総数千八百一句・一般投句数七百三十一句）

選者 河西 かつら

特選

どの児にも風の涼しき幼稚園 大垣市 伊藤 有紀

「この子にも涼しく風の吹く日かな」 飯田龍太
の句を踏まえての句と思う、園庭を囲む木々を吹きぬける風に乗って子供達の賑やかな声が聞こえてくる。元気な一日の始まりを感じさせる爽やかな句と思う。

三伏や昭和の句ふ資料館 大垣市 森川 きよ子

旅行の途次か、とある資料館を覗いてみる埃の匂いか、黴の匂いか子供頃の覚えのある道具が並ぶ、昭和の匂いであり、どれもこれも思い出が甦って懐かしく見て廻る。季語「三伏」が適切。

梅雨晴間初めて俳句遊びなり 大垣市 酒井 和美

鬱陶しく続いた梅雨の晴れ間の一日、仲間誘われて吟行に出る、緑の木々を仰ぎ涼やかな流れなど眺めながら句を考える、俳句の面白さ仲間との交流の楽しさを感じながらこれから長く続けて欲しいと思う。

秀逸

荒梅雨や綾取りを子に教へをり 養老郡養老町 上村 砂子

子の願い重し短冊星まつり 大垣市 川瀬 美沙子

手帳もち俳句詠む子の夏ぼうし 養老郡養老町 高木 美保

廃村の寺の石段濃あぢさゝる 大垣市 今津 正元

峰雲や負けし子と干す柔道着 安八郡神戸町 高橋 泰

羅や風遊ばせて四季の路 大垣市 新町 恵子

端居して妻と昭和のこと語る 大垣市 村田 通夫

鮎釣りの等間隔に根尾溪流 不破郡垂井町 江崎 真一

三川の潤す平野植田風 岐阜市 石崎 宗敏

蒼穹を独り占めして朴の花 愛知県豊田市 城山 憲三

入選

百合の香や谷一面を包みけり
 寮生のみんな無言や豆の飯
 盗墨セーフ汗まみれ砂まみれかな
 蚕豆や電文もどき旅だより
 掌の中へ子蜘蛛をゆるく握りけり
 七夕や夢は宇宙へ願ひ笹
 湧水のつなぐ村里合歓の花
 梅雨空に晴耕雨読言い訳す
 夏草を分け長身の測量士
 清水汲み立飲む男足早に

大垣市 大角 信子
 安八郡神戸町 後藤 和朗
 大垣市 町野 眞佐子
 東京都世田谷区 関戸 信治
 大垣市 佐藤 すみ子
 大垣市 宮脇 和子
 大垣市 鶴田 信子
 大垣市 松村 久子
 大垣市 中山 あや子
 大垣市 秋山 くに子

入選

あぢさいの花もとりどり輪中堤
 雨意の雲来たれば忙し雨蛙
 柔らかく蚩袋に抱かるる
 氏神は村の高台麦の秋
 旅ひと日古道は青葉に包まれて
 沙羅咲くや床に掛けある一茶の句
 梅雨深し昼を灯して地藏堂
 水打ちて石の貫録呼び覚ます
 教室の朝顔の鉢一年生
 青葉風山城への坂ピラスの子

大垣市 川瀬 喜梅古
 不破郡垂井町 児玉 信子
 大垣市 小林 研
 大垣市 棚橋 みさを
 大垣市 中西 映衣子
 大垣市 神野 武彦
 安八郡神戸町 高橋 日出美
 安八郡神戸町 高橋 泰
 大垣市 渡辺 一光
 大垣市 田中 岸子

選者吟

一本の大樹一寺の暑さ負ひ

かつら